

魚津市定例記者会見 6月

日時：平成27年6月1日（月） 午後1時30分～

場所：市役所第一会議室

報道出席者：北日本新聞社、富山新聞社、北陸中日新聞社、朝日新聞社、読売新聞社
チューリップテレビ、北日本放送、富山テレビ放送、NHK、
NICE TV

市当局出席者：市長、副市長、企画総務部長、産業建設部長、民生部長、
教育委員会次長、企画政策課長

1. 市長からの説明事項

(1) クールビズを実施

5月は良い天候に恵まれ、よっしゃこい!!CHOUROKU祭り、戦国のろし祭りといったイベントにも大勢ご来場いただいた。蜃気楼の発生回数も多く、たくさんの方に魚津の自然をはじめとした魅力を感じてもらったのではないかと思います。

市では6月1日からクールビズ実施の予定だったが、暑さが堪えるようになり4日ほど前倒しで5月27日から実施している。

(2) プレミアム付き商品券を販売

12,000円分の商品券を10,000円で販売するプレミアム付き商品券を6月7日に発売する。15,000セット用意し、総額で3,000万円がプレミアム分になる。市内の商店街に元気がでるよう期待している。

(3) 6月市議会定例会

6月11日～26日で会期16日間。補正予算の主なものは、介護保険のシステム改修費用、水族館の空調設備修繕、また来年4月に片貝・西布施・吉島小が統合してスタートする清流小学校のスクールバス購入費など。

(4) その他

①5月27日のチャレンジデーは、魚津市の参加率47.3%に対し茨城県行方市が50.3%で残念ながら敗北。4年間の通算成績2勝2敗となった。

②かねてから整備が進められていた魚津港(北地区)がこの春完成の運びとなり、6月21日に完成記念式典がある。朝市などのイベントも同時開催されるので港周辺でたくさんの方にお楽しみいただきたい。

③千葉ロッテマリーンズの石川歩投手の応援ツアーを6月27日に企画し、後援会で参加者を募集している。去年は10勝をあげ新人賞を獲得したので、今シーズンもさらに良い成績となるよう応援していきたい。

2. 質疑応答での市からの説明内容

「非核平和事業について」

《記者からの質問》

平和首長会議に加盟している自治体では、どこもこのような行事をするのか。

《回答》

行事は魚津市独自の内容となっている。戦後70年になり、戦争を知らない世代が大半を占めるようになった。特に次代を担う子ども達に平和の尊さを伝えたいという趣旨で開催する。

「県総合防災訓練について」

《記者からの質問》

6月の防災パトロールに関連して、今年は県総合防災訓練が魚津市で開催されるとのことだが、訓練の内容はどのようなになるか。

《回答》

9月6日にありそドーム周辺を中心に行われる。詳細は現在協議中だが、総合防災訓練なので、今年の豪雨災害も踏まえた内容になるかと思われる。

「企業誘致について」

《記者からの質問》

企業が中央から地方に本社機能を移転した場合、税制面で優遇するなどの措置があるようだが、魚津市で企業誘致の取り組みはあるのか。

《回答》

ある時期に多くの自治体が企業誘致と雇用をセットにし、盛んに企業誘致をしていた。本市では、もし企業進出の話があってもすぐに広大な用地を準備できる状況にないというのが実情だ。現在、市内にはものづくりを中心とした中小企業がいくつもあるなのでその支援を続けていきたい。優良農地を工業用地にどんどん変えていこうというスタンスではなく、現存企業の拡張に協力し雇用につながるようにしたい。

「市長の任期が残り1年程となったこと」

《記者からの質問》

市長の任期が1年を切った。これまでの3年間を振り返っての評価と今後の抱負は。

《回答》

任期満了まであと340日余りとなった。当面の課題にスピード感を持って取り組んでいきたい。近い将来では、全国植樹祭の開催、魚津駅周辺整備などに照準を合わせ順調に取り組みを進めてまいりたい。

過去3年というよりも市長に就いてから12年目に入ったという気持ちでいうと、

平成 16 年に就任し、その年の秋に中越地震があり、その後も近隣では水害などが多くあった。本市でも平成 25 年暮れに大町地区で大きな火災が発生し、魚津大火からの火災復興の歴史を改めて考えさせられた。去年は、これまでに経験のない豪雨災害に見舞われ、予期せぬ災害に備えるという意識をもたなければと実感した。災害と向き合うことが多かったというのが正直な感想だ。

高齢社会、限界集落など多くの問題に直面し、何よりも地域社会が元気になることが重要と考えてきた。この 4 月には市内全地区で地域振興会が立ち上がり、自分たちの地域は自分たちで創造しようという気運が定着しつつあると感じている。今後は若い世代の参画を進めていくのが大きな課題だ。

「石川県で開催された第 66 回全国植樹祭について」

《記者からの質問》

産業建設部長が視察に参加されての感想、報告を受けた市長の感想をお聞かせ願いたい。

《回答》

参加人数はじめ規模の大きさは想像以上だった。県民あげて総参加の印象をもったが、裏方ではトイレの混雑などが目についた。視察を参考に今後実行委員会と十分に調整をして大会の成功に向け頑張りたい。

全国植樹祭では、開催地がそれぞれ特色ある取り組みをしているのをこれまで実際に見てきた。今回の開催地決定を受けて、県東部が連携して活性化を図るためにも広域開催の案を知事に申し上げたところ、ぜひそうしてほしいとの返事をいただいている。4,000～5,000 人といわれる参加者を魚津市だけで受け入れることはできないので、県内各所で宿泊してもらい、宿泊地での思い出に住民とともに記念植樹するといった案を出している。

魚津の植樹祭会場は森から海までの眺望が大変良いと評価を受けている。全国植樹祭は今ある施設を利用しながら開催しようというもので、桃山運動公園がメイン会場に選ばれたのはよかったと思っている。